

## 重要文化財門脇家住宅 春の一般公開

重要文化財門脇家住宅の春季一般公開が、5月3日（火）～7日（土）まで行われました。期間中、県内外から約800人の方が所子を訪れました。

今回の公開では、門脇家所蔵の美術品の展示のほか、富田隆之さんによる「能面」展、山根博充さんによる「花菖蒲」展、大山口駅前にある「弥生の風」の皆さんによる「手しごと」の作品が展示され、見学者はじっくりと鑑賞していました。

また、大山女性の会が作り、門脇家当主が命名したお菓子『大山古道』も限定販売され、公開に彩りを添えました。

特別企画として、最終日の7日には、三味線演奏家杵屋五司郎さんの長唄・三味線トランプライブが行われました。琉球から渡来した三線が大阪に伝わり江戸時代ごろに改良されて三味線が出来たこと、日本の代表的な楽器の中では最



▲見学の様子



▲「勧進帳」などを演奏

（人権・社会教育課文化財室）

## まちのたから（15）～文化財室通信～ 大山寺阿弥陀堂の巻

大山夏山登山道を進んで間もなく、右手の大きな杉木立

に重厚な佇まいの「大山寺阿弥陀堂」が見えます。

堂は正面を西に向けた宝形造、柿葺きの正面五間・側面五間の堂々とした建物です。

外周に切目縁がめぐり、堂内は腰板壁と円柱で正面三間・側面二間の内陣と外陣に仕切つてあります。

近世絵図では僧侶が常行三昧の修行を積む「常行堂」と描かれ、棟札には享禄2（1529）年の洪水で古常行堂が流され、敷地を新たに造成して、天文21（1552）年に現在地に再建したと書かれています。『大山寺縁起』には「常行堂」「阿弥陀堂」の両方が見え、本来は別々の建物であつたようでもあり、謎が残る建物であります。

平安時代後期の大山には中門・南光・西明の三院があつて勢力を争っていました。大山信仰の中心は地蔵信仰ですが、西明院が本尊としたのは阿弥陀如来であり、阿弥陀信仰も大山信仰の大きな部分を占めていました。

話もご披露いただきました。門脇家の和の空間に美しい三昧線の音色が響き渡りました。期間中、所子町並み保存会の皆さんのが所子伝建地区を案内する「ところごトコトコ町並歩き」も行われ、にぎやかな公開となりました。

この新しく作られた樂器であることなど三昧線にまつわるお話をもご披露いただきました。門脇家の和の空間に美しい三昧線の音色が響き渡りました。期間中、所子町並み保存会の皆さんのが所子伝建地区を案内する「ところごトコトコ町並歩き」も行われ、にぎやかな公開となりました。

再建の際に古常行堂の古材も用いてあり、太い円柱に残る無数の傷は災害時のものと伝わっています。円柱が梁間・桁行とやや不釣合に大き